

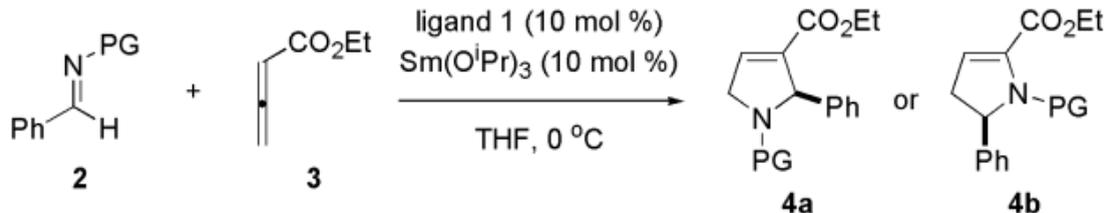
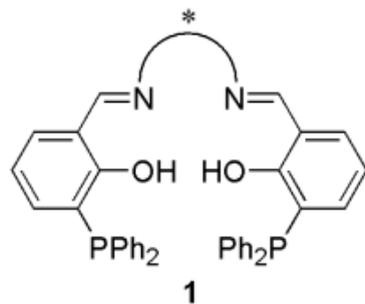
26Q-am006

新規ホスフィン Schiff 塩基触媒の不斉反応への応用

○名川 恵太¹, 半田 晋也¹, 松永 茂樹¹, 柴崎 正勝¹(¹東大院薬)

【目的】我々はこれまでに複核シッフ塩基錯体の特性を活用し、種々の触媒的不斉反応の開発に成功している¹⁾。今までの触媒系の基本概念はルイス酸—ブレンステッド塩基による二点活性化機構であったが、今回この触媒系の新たな展開を模索すべく、ルイス酸—ルイス塩基の組み合わせを特徴とする新規不斉触媒の開発に着手した。

【結果】本研究では、まずホスフィンを導入した新規配位子 **1** を合成し、以下に示す環化付加反応への適用を試みた。種々検討の結果、 α -付加体 **4a** のみを良好な収率にて得ることに成功した。 γ -付加体 **4b** は全く観測されなかった。現在不斉誘起の実現を目指しているところである。本発表では触媒的不斉反応へ向け様々検討した結果について詳細に報告する予定である。



1) (a) Handa, S.; Nagawa, K.; Sohtome, Y.; Matsunaga, S.; Shibasaki, M. *Angew. Chem., Int. Ed.* **2008**, *47*, 3230. (b) Shibasaki, M.; Matsunaga, S.; Kumagai, N. *Synlett* **2008**, *11*, 1583.